



特集



カジダン・イクメンの作り方

家事男・育MENのススメ!



家事に積極的な男性「カジダン」、日常的に育児を楽しむ男性「イクメン」。こういった言葉を目にする機会が増えました。「子どもが乳幼児期に、夫と一緒に子育てをやってくれたか否か」が女性の愛情配分(図1)に影響を与えるというデータもあり、男性の家事・育児への参加はよりよい夫婦関係作りの一助にもなりそうです。

では、どうしたら「カジダン」「イクメン」になれるのでしょうか。市内のパパ同士のネットワークグループ「さいいパパ」のメンバー3名の方に、家事・育児への取組や、うまくやっていくコツなどをお聞きしました。

Q家事・育児に関わるようになったきっかけは?

ヒロユキパパ 長男が誕生したのと同じに、「さいたまパパ・スクール」というパパのための講座を受講し、パパと家族の在り方を学んだことです。
ひろくんパパ 産前産後にパートナーが体調不良になったことです。
かずあきパパ 結婚した時子どもが生まれた時から、半々で分担していました。

Qどのような家事・育児をこなしている?

ヒロユキパパ もともと料理好きなので、時間がある時は家族全員分の料理を作ります。他には、長男をお風呂に入れたり、聞き分けがない時に「叱る」役割を担当しています。夫婦間の分担は、得意分野を生かす形で自然と決まりましたが、お互い納得できています。
ひろくんパパ 家事・育児全般をやっています。夫婦間での分担は特に決めていませんが、お互い納得できていないように思います。
かずあきパパ 料理、洗濯、掃除、買い物、オムツ替え、寝かしつけ、夜泣き対応、保育園への送迎など家事・育児全般をやっています。やることを書き出して、基本は半々で担当を分け、体調不良の時などはフォローし合っています。書き出すことで分かり合っていますし、不満が出て、話し合って解消

つ、妻に聞いてから始めること。なぜ分担したいのかをきちんと伝え、やり方などを聞いてみるとよいと思います。他には、楽しんで取り組むこと、妻が喜ぶ姿を想像すること、深い愛を持って妻と接することでしょうか。男性の家事・育児の下手さにイライラする女性もいるかもしれませんが、寛大な心で支えて、褒めて伸ばしてあげてほしいと思います。そうすることで、自分一人の時間を作ることができるようになるし、仕事にも復帰しやすくなると思います。父子手帳、母子手帳、パパ友との会話、料理サイトや本なども助けになりました。

しています。

Q家事・育児をやりはじめてよかったことは?

ヒロユキパパ 買い物に行くようになって食材の「相場」がわかるようになりました。子どもが何を考えているかも段々とわかるようになってきました。家事・育児の大変さもよくわかりました。母親の負担軽減や子どもの将来を考えると、男性はもっと積極的に家事・育児をやっていくべきです。その姿を見た子どもは、それが当たり前になり、自分が親になった時もそうしてくれると思います。

ひろくんパパ 育児しながら家事をやることの大変さがわかりました。また、子どもにとっては、父親・母親とのコミュニケーションのバランスが取れるのでよいのではないのでしょうか。子どもが積極的に家事を手伝ってくれるようにもなると思います。

かずあきパパ 妻からの信頼を感じる事ができます。妻の大変さ、楽しさがわかるので夫婦愛が深まりました。妻に一人で遊びに行ってもらい、リフレッシュしてもらうこともできます。

Q家事・育児をうまくやるコツは?

ヒロユキパパ 夫婦でお互いのために何をしてあげたら楽になるかを考えて、

LET'S TRY!

カジダン・イクメン実践5か条

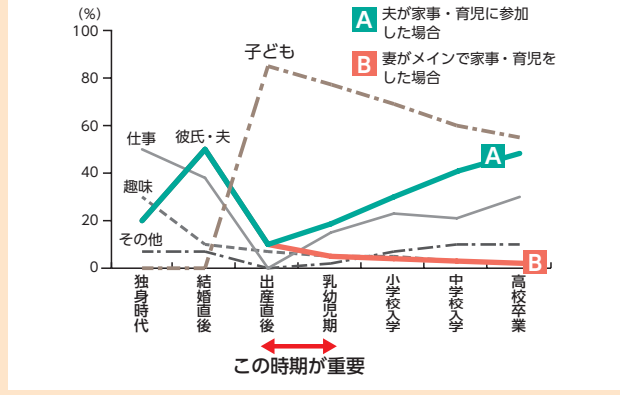


- ①何はともあれ挑戦してみる。
- ②始めからうまくはできない。やり方を確認し、合格点は低めに設定。
- ③育児パパサークルを活用する。
- ④周囲にも協力してもらう。
- ⑤相手を思いやり、コミュニケーションをしっかりとる。



「パパとパパがつながることで、きっとできることがある。そして、きっと家族が笑顔でつながる」を合言葉に2012年に結成されたパパ同士のネットワークグループ。年に一回の「さいたまパパ・スクール」(連続講座)を開催しているほか、料理教室や木工教室など、メンバーによるさまざまな企画が実施されています。だれでも参加できる「さいいパパしゃべりばナイト」は、毎月一回、浦和などで開催されています。代表: 紅谷弘二 メール: mail@saipapa.org HP: https://sites.google.com/site/saipapahome/

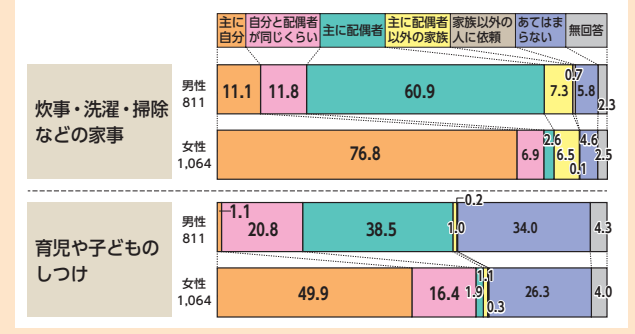
図1 女性の愛情曲線



「女性の愛情曲線」とは、女性のライフステージ別に、夫や子どもへの愛情の配分がどう変わるか調査したものです。夫への愛情曲線は妻の出産直後に境に回復組と低迷組に二極化します。この結果は、「子どもが乳幼児期に、夫と一緒に子育てをやってくれたか否か」という設問への回答ときわめて高い相関関係があることがわかっています。すなわち、子育てを夫と一緒にやったと回答している妻グループの夫への愛情は回復していくのに対して、自分一人でやったと回答している妻グループへの夫への愛情は低迷していくのです。

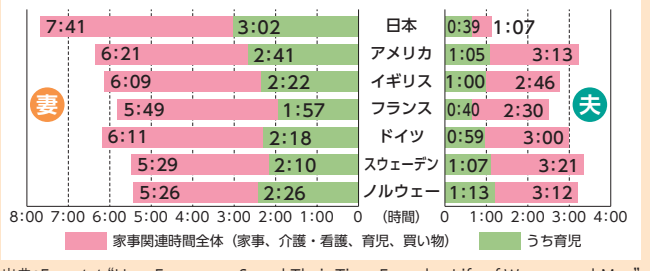
出典: 瀧美由喜「イクメンで行こう!」(日本経済新聞出版社、平成22年12月出版)

図2 家庭生活における役割分担



出典: さいたま市男女共同参画に関する市民意識調査(平成24年1月)

図3 6歳児未満をもつ夫婦の家事・育児時間の国際比較



出典: Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey" (2006) 及び総務省「社会生活基本調査」(平成23年)